

外国債券の国内店頭取引について

お客様と楽天証券株式会社（以下「当社」といいます。）との間における外国債券の国内店頭取引については、以下の点を十分ご理解のうえ取引されるようお願いいたします。なお、当社売出しなどに係る外国債券のご購入にあたっては「契約締結前交付書面」、「販売説明書」、「目論見書」又は「募集要項」などもご覧になり、商品の内容、投資に伴うリスク等について十分ご確認ください。

1. 国内店頭取引について

国内店頭取引は、お客様と証券会社との日本国内における相対（あいたい）取引であり、当社が市場価格や金利情勢、格付情報などを参考にして合理的に算出する適正な価格で取引を行います。各証券会社は、それぞれこのような方法で適正な価格による取引を行うこととしておりますので、金融商品取引所等で売買取引を行う場合とは異なり、それぞれの証券会社によって取引価格が相違することがあります。なお、当社が国内店頭取引によってお客様から買い付けることができる外国債券は、当社が保管の委託を受けているものに限ることといたします。又、お客様が国内店頭取引を希望されても、当社は、すべての外国債券を取り扱っているわけではありませんので、ご了承下さい。

2. 取引に必要な費用

国内店頭取引で外国債券を売買するときは、取引価格に取引の実行に必要なコストが含まれているため、別途の手数料は必要ありません。

公社債の売買には、原則として経過利子の受け払い（買付時に支払い、売付時には受け取れます。）が必要となります。

なお、外貨と円貨との換算を行う場合には、外国債券の買付けの場合は売りレート（円貨から外貨）、外国債券の売付けの場合は買いレート（外貨から円貨）が適用されます。換算レートは当社が定めるレートとなります。

3. 外国債券投資とリスク

外国債券への投資には、他の金融商品と同様に価格変動リスク、信用リスク及び流動性リスクなどを伴います。さらに、為替リスクやカントリーリスクなどにも注意する必要があります。

① 価格変動リスク

債券の市場価格は、流通市場における需給関係や発行体の情報、金利動向や経済情勢等を敏感に反応し、変動します。一般的に、金利が上昇する過程では債券価格は下落（利回りは上昇）し、逆に金利低下の過程では債券価格は上昇（利回りは低下）することになります。償還日より前に途中換金する場合は、売却時の価格によって売却益がでる場合も売却損がでる場合もあります。

② 信用リスク（元利払いリスク）

債券発行者が債務返済不能状態に陥った場合などに、元本や利子の支払いが滞ったり、不能となることがあります。

③ 流動性リスク

債券は、償還までの間に売却することにより途中換金が可能とされていますが、

市場に一方的な大量の買い注文や売り注文が殺到したり、市場環境の変化により流動性（換金性）が低くなる場合もあります。極端な場合には、国内店頭取引による買い取りが行われなくなる可能性もあります。

④ 為替リスク

元本又は利子の受取りが外貨で行われる外国債券については、それぞれの受取り時点における為替レートの水準によって円貨換算したときの受取額が異なり、投資元本を割り込むことがあります。

⑤ カントリーリスク

外国債券は、さまざまな国の発行体によって発行されます。したがって、その国の政治・経済・社会情勢に大きな影響を受けます。

4. 投資の参考情報

当社が取扱う外国債券については、価格情報及び格付の状況その他参考となる情報を、お客様からの求めに応じて提供します。

5. 保管

お客様が当社に保管を委託する外国債券は、混合寄託契約によって当社に寄託されることとなります。寄託された外国債券は、当社名義で当社が契約する保管機関に寄託しますが、その国の諸法令及び慣行に従い厳正に管理されます。

6. 税金

国内債券と同様に外国債券を国内店頭取引により売却するときには譲渡益に対して課税される場合があります。又、償還差益、利子等に対しても課税されます。詳しくは税務署にご確認下さい。

7. 外貨決済について

外国債券の取引、および利金・償還金支払い等に関して行う当社とお客様との間における受渡決済代金等の精算は、円貨又は外貨（当社が外貨を指定する場合及び当社が応じ得る外貨でお客様があらかじめ指定する場合に限り）によります。日本円での決済の場合、換算レートは、換算日において当社が定めるレートによります。（そのため為替換算に係る往復の為替手数料は、お客様のご負担となりますことをご理解下さい。）

8. その他

当社では、外国債券を信用取引の代用有価証券とすることはできませんので、あらかじめご了承下さい。

以上

（2020年6月）